

図書館だより

休館日…毎週月曜日、5月12日(木)
 祝日開館日…5月3日(火)、4日(水)、
 5日(木) 9時～17時

★図書館ホームページのご活用を

- ①貸し出し中かどうか、所蔵資料の確認ができます。
- ②新着資料情報、今人気の本(予約の多い本)がわかります。
- ③年間カレンダー(休館日のお知らせ)、行事案内などのお知らせをご覧いただけます。
- ④自宅のパソコンや携帯電話から、資料の予約、ご自分の貸出状況・予約状況の確認などができるパスワード登録について、ご案内しています。

★5月の「おはなし会」開催日 (八日市場図書館)

7・14・21・28(土) 14時から約30分間
 ホームページ
<http://www.library.sosa.chiba.jp>

☎八日市場図書館 ☎73-3746 (17時まで)

市政の窓 No.12



今年の春は、全国民が花見をする気分ではなかったであろうし、なぜか桜も遠慮がちに咲いていたように感じられ、日本で一番美しい季節があつたという間に過ぎました。また、孫の小学校入学を喜ぶ時間もなく1か月が経ちました。

東日本大震災発生から早や50日。復興の兆しは程遠く、福島第一原発事故は収束のめどさえつきません。

テレビでは相も変わらず「枝野官房長官による放射性物質への対処法」、「原子力安全保安院による進展のない報告」、「東京電力役員による謝罪会見」のみ。遅々として進まぬその裏には、民主党の二極化による

負けるな日本

求心力の低下と、国難時にもかかわらず与野党の政権争いが行われているようにしか感じられません。

「レベル7」となった原発事故の収束時期によって、土壌などへの影響が農水産業関係者の死活問題に

まで発展するであろうと考えられます。「風評被害」という言葉とその影響の大きさは聞いてはいたものの、今まさに我々が被害を被っている状態です。

3月14日、天皇皇后両陛下が、激甚災害地であるお隣の旭市を慰問し、避難所の被災者の皆さんを激励されました。次回は、ぜひお祝い事でお越しいただきたいものです。

来年の花見は、国民全員で楽しむことができるように心から願います。

負けるな日本!
 頑張ろう匝瑳!
 匝瑳市長 太田安規

文芸コーナー

短歌

土屋 耕一 推薦

新しく鋤返えされて其処此処の冬田は黒土となりて日に照る

飯倉台 多部田佐智子

雛まつりの歌が流れる保育園おひるね時か静まりかえる

八日市場ハ 太田 玲子

ただ一羽池に來たりし白鳥の飛び立つ音に鯉も跳ねたり

若潮町 伊藤登美枝

小湊へ下る坂をば地の人は「ほへと坂」よと我に告げたり

八日市場イ 市原 弘

春めける日差しを道を行き戻るシルバーカーをわれは押しつつ

八日市場イ 中川いね子

末孫を一人韓国に留学さす子離れせしか息子ら夫婦

生尾 中島 静代

穏やかに日々生きおれり老いし我心やさしき子等ありてこそ

大寺 潮来喜美子

東日本巨大地震のテレビ観て凄惨さ知る津波の怖さ

内山 林 恒雄

川口 城司 推薦

温厚に秀でたる姪よ鬪病の幾年空しく黄泉に旅立つ

野手 大木 政子

暖かき南の風の吹く朝地下足袋の鞣しっかりと締む

栢田 渡辺 重雄

大地震停電に水道敢へ無くて温熱器の水炊ぎに用ふ

栢田 小川 知至

雨寒き野菜ハウスにせきれいのつかず離れず餌あさりをり

今泉 小川みさ子

俳句

西野 棠雨 推薦

風紋の九十九里浜桜まじ

春海 浜野 隆志

姫君の供養

新を歩く

匝瑳 探訪

- 60 -



3月に新地区で行われた供養碑の開眼法要

新と書いて「シムラ」と呼ばれる地区が国道296号線沿いの豊栄地区にあります。文字を見ただけで正確に読める人は少ないかもしれません。その語源は、新集落が木積や田久保地区に対して下村に位置することから、「シムムラ」から「シムラ」に変わったと考えられます。

3月下旬、新コミュニティセンターでささやかな法要が営まれました。同敷地内に「新村城姫君霊位」と刻まれ

た高さ70センチほどの石塔が建てられ、それに魂を入れる儀式でした。裏面には、「弘治2年（一五五五）新村城落城の折、不慮の落命にたいし碑を建て供養するものなり」と書かれています。

国道296号線を多古方面に向かい、小高い切通の左側にある集落が新区です。集落背後の小高い台地面が1550年代後半まで城郭だったとされる「新村城址」です。

地区の歴史に詳しい加瀬俊雄さんは、「城主は三谷胤重という武士で、その妻が富岡村から嫁入りする時に金の茶釜を持って来た。落城の際、姫君（胤重の娘）がかたみにこの茶釜を抱えて井戸に身を投げた。時が経ち、ある時この言い伝えを信じた新区の3人の若者が茶釜を掘り出し、富岡区に返し、今も残っている」と、この城にまつわる伝説を語ってくれました。

伝説に出てくる姫君を供養しようと、区の「女人中」が碑を建てました。女人中とは

女性グループ（講中）のことです。区の文殊院境内には1777年の「十九夜講中」、そして年代は不明ですが、「当村女人中」によって建てられた石仏がまつられています。江戸時代から続く安産・子育て、長寿延命などの願いを石仏に祈った女性グループの信仰活動が、現在も引き継がれています。

新村城址は昭和50年代の調査で、城主の普段の生活の場である「要害」や土を盛った土塁、空堀などが確認され、研究者に注目されました。城址は現在山林となっていて妙見や釈迦堂など歴史を伝える地名が残り、八雲神社もまつた道であったことを示す1740年造立の道祖神などがあります。

1603年に江戸幕府が開かれてから新村も落ち着いたようで、1681年には家数16軒、幕末から明治にかけて19軒、20軒と記録にあります。少戸数ながら新区は、落城姫君伝説の残る集落として、まとまった印象をもたらしています。

問 秘書課広報聴班

☎ 73・0080

ポケットの鍵の鈴鳴る遅日かな
余生なほ夢捨てがたき花の宴
歩くこと出来る幸せ青き踏む
校庭にボール蹴る音暮遅し
花菜風余震に馴るることのなし
土筆出であとつきつきに野の覚むる
菩提寺の地藏傾ぎし春の地震

川口 城司 推薦

快癒なきままの余生や石の露
香りたつ薄紅梅やはたち髪
おぼる夜や雲ゆったりと流れけり

川柳

高梨 果宝 推薦

口コミで客が集まる旨い店
百の愚痴腹に収めて結ぶ口
口伝え孫に教える人の道
口止めをされた筈でもつい滑り
トンネルの出口みえない不況風
口止めをしたのに漏れる内緒ごと
客席へ目くじら立てて見得を切る
権力を恐れず議論侃侃と

老眼の薄くばやけて見る細字

川口 城司 推薦

川 辺 及川 利道

匝瑳市 秘書課 広報聴班

あて先： 匝瑳市秘書課広報聴班

〒289-2198
匝瑳市八日市場ハ793番地2
☎ 73・0080 FAX 72・1114